

⑯ 日本国特許庁 (JP)  
⑯ 公開特許公報 (A)

⑪ 特許出願公開

昭59—54

⑯ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 61 C 15/00  
A 46 B 5/04  
A 61 H 13/00

識別記号

府内整理番号  
6527—4C  
6671—3B  
6807—4C

⑬ 公開 昭和59年(1984)1月5日  
発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭ 歯みがき具

ーリツヒ・クロスバツハシュト  
ラーセ110

⑯ 特 願 昭58—89315

⑯ 出 願 昭58(1983)5月23日

優先権主張 ⑯ 1982年5月22日 ⑯ 西ドイツ  
(D E) ⑯ P 3219301.7

⑯ 発明者 アブラハム・フィツシュマン  
スイス国シーエツチ-8032チュ

⑯ 出 願 人 アブラハム・フィツシュマン  
スイス国シーエツチ-8032チュ  
ーリツヒ・クロスバツハシュト  
ラーセ110

⑯ 代 理 人 弁理士 猪股清 外3名

明細書

1. 発明の名称 歯みがき具

5) 取り付けるための手段が、はがすことができるフィルムによつて覆われかつ薄片の背面に設けられた接着剤層を有していることを特徴とする特許請求の範囲第1項または第2項に記載の歯みがき具。

2. 特許請求の範囲

6) 薄片の剛毛あるいは剛毛状の隆起部が設けられた側に、歯みがき剤が設けられていることを特徴とする特許請求の範囲第1項または第2項に記載の歯みがき具。

1) 多数の剛毛あるいは剛毛状の隆起部が設けられた薄片からなり、この薄片が適当な大きさに寸法づけられ、その背面にホールダに着脱可能に取り付けることができる接着剤が設けられていることを特徴とする歯ないし歯ぐきを掃除し保護するための歯みがき具。

2) 薄片が可撓性材料特に弾性ゴム材料から作られていることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の歯みがき具。

3) 剛毛状の隆起部が薄片と一体の構造部品として形成されていることを特徴とする特許請求の範囲第1項または第2項に記載の歯みがき具。

4) 剛毛が薄片に積み込まれていることを特徴とする特許請求の範囲第1項または第2項に記載の歯みがき具。

7) 歯みがき剤が乾いていて、水あるいは唾液と接触した際に始めて有効となることを特徴とする特許請求の範囲第6項に記載の歯みがき具。

8) 多数の同一形状の歯みがき具が共通の担体の上に包装して配置されていることを特徴とする特許請求の範囲第1項ないし第7項の何れかに記載の歯みがき具。

9) 担体の上にカバーフィルムが設けられ、このカバーフィルムにおいて歯みがき具を衛生的に覆いかつ互に分離する単位部分が形成されていることを特徴とする特許請求の範囲第8項に記

載の歯みがき具、

- 10) 単位部分の間における担体およびカバーフィルムにミシン穴あるいは設定破断箇所が設けられ、衛生的に包装された歯みがき具がそれぞれこのミシン穴あるいは設定破断箇所で互にちぎれることを特徴とする特許請求の範囲第9項に記載の歯みがき具。
- 11) 単位部品における担体とカバーフィルムとの間に歯みがき具糸が封入され、この歯みがき具糸が単位部分をちぎりおよびないし破断するためにも用いられるように配置されていることを特徴とする特許請求の範囲第9項に記載の歯みがき具。
- 12) 多数の同一形状の歯みがき具が互につながり合つた一体の構造物として形成され、その場合各歯みがき具間ににおける連結が薄片材料の横側張り出し部を介して行なわれていることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の歯みがき具。

のマッサージも重要である。

これも普通の歯ブラシではすべての口角が得られないで限度がある。

部分的に密になつている多数の剛毛を持つた剛毛担体板を有しているような歯みがき具が西ドイツ特許第1253668号明細書において知られている。この剛毛担体板は少なくとも一つの指輪で指に取り付けることができる。

同じような歯みがき具はフランス特許第7035015号明細書でも知られている。この明細書には2つの指輪を持つた剛毛板の他に、剛毛付きの弾性指サックの形態も記載されている。

類似した構想は米国特許第2018903号明細書および同第3176338号明細書並びに英国特許第167906号明細書にも記載されている。

これらのすべての実施形態は、製作費用が高すぎ、したがつて使い捨て品として使用できず、衛生的にかつ場所を節約して包装するためにはかさばりすぎるという欠点を有している。

本発明の目的は、上述した要求を十分に考慮し、

### 3. 発明の詳細な説明

本発明は歯を掃除し歯ぐきをマッサージする歯みがき具に関する。この種の周知の歯みがき具は、色々に配置された剛毛を持つた色々な形および大きさの歯ブラシである。

歯ブラシは特に何回もの使用によつて不衛生となり、場合によつては感染を生ずるという欠点を有している。今日において一般に知られている歯についての認識に基づいて口腔衛生における次の規則が特に注目される。

#### A. 毎食後に歯をみがく。

このことは外で食事をした場合に普通歯ブラシや歯みがき粉を持つていないのでほとんど実施できない。

#### B. 歯はすべての側からみがかなければならず、歯ブラシはすべての口角で挿入できなければならぬ。

このことは歯ブラシの単純でない特別な操作を必要とし、限度がある。

#### C. 歯を保つために歯をみがくのと同様に歯ぐき

上述の欠点を除去するような歯みがき具を作ることにある。

特に口腔衛生の主要なすべての問題を考慮していつでもどこでも使用できる歯みがき具を携帯することができるようを解決策を提案する。

本発明によればこの目的は、多数の剛毛あるいは剛毛状の隆起部が設けられた弾性ゴムの薄片から構成され、この薄片が適当な寸法にされ、歯みがき剤が浸透され、接着剤が設けられ、この接着剤でホルダ特に指の内側に取り付けることができるよう歯みがき具によつて達成される。有利な普通の実施形態においてこの取り付け手段ははがすことができるフィルムによつて覆われかつ薄片の背面に配置された接着剤層を有している。剛毛状の隆起部が薄片の一体構造部品を形成している場合に特に簡単に製造することができる。

かかる歯みがき具は常に携帯して持つことができる使い捨ての歯みがき具を形成する。数日間の口腔衛生に対する必要量はチョツキのポケソトの中に入る。この歯みがき具は衛生的に包装されて

いる。

歯みがき具が設けられた指は口の中にあらゆる角度で良好に入れることができ、その場合歯みがけるだけでなく、歯ぐきをマッサージすることもできる。その取り扱いは幼稚であるので、幼児も使うことができ、その都度歯をみがくことができる。

以下図面に示す実施例について説明する。

第1図に示した歯みがき具は弾性ゴム材料の長円形をした薄片10から構成され、この薄片10は上側にそれと同一材料からなる剛毛状の隆起部11が設けられ、下側に接着剤層12を有している。第1図の右側半部においてこの歯みがき具は平らな四角のフィルム13の上にその接着剤層によつて貼り付けられている。歯みがき具を使用するためにこのフィルムは接着剤層からはがされ、この歯みがき具は第2図に示したように右手の人さし指の内側に貼り付けられる。歯みがき具はこのようにして使用できる。もちろんこの歯みがき具は別の指の内側、あるいは左手の指にも設置できる。指に

貼り付けられた歯みがき具はその指によつて口の中に入れられ、歯みがいたり歯ぐきをマッサージしたりできる。

歯みがき具は第3図に示したように剛毛状の隆起部の上におよびないし間に歯みがき剤を設けることができる。全体を符号50で示した歯みがき具はたとえば第1図における歯みがき具に相応している。剛毛状の隆起部の間には点で示した歯みがき剤51が設けられ、この歯みがき剤は水あるいは唾液と接触した際に有効となる。使用前に取り外すことができる適当なカバー52がある場合、歯みがき剤はペースト状の成分を含むことができる。

歯みがき具をそれぞれ第1図に示したようにフィルム片の上に貼着する代りに、沢山の薄片をテープ状あるいは長方形のフィルムの上に第4図、第5図および第6図に示したように貼り付けることもできる。ここではさらに歯みがき具は第2のフィルム41によつても衛生的に構われている。両方のフィルムは縫合線に沿つて互に接続されているので、各歯みがき具をそれぞれ分離する単位部分

を形成している。単位部分の間にはミシン穴あるいは設定破断箇所が設けられている。これは衛生的に包装された歯みがき具をそれぞれテープからはぎ取ることを可能にしている。その包装は使用する際に始めて開かれる。

第6図はさらに別の変形例を示している。個々の歯みがき具60は第4図および第5図における包装と同じように衛生的に包装されているが、ここでは包装パックの中に歯みがき具糸61も封入されている。この糸61の一端は歯みがき具に有利に接続されている。かかる糸はたとえば自動販売機の中に入れられ、かかる使い捨ての歯みがき具をひとつづつ販売できる。かかる自動販売機は洗面所に設けることも考えられる。

変形例として糸を単位包装パックをはぎ取りおよびないし分離するためにも用いられるように配置できる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は背面側に接着剤層を有しそこにはぎ取

り可能なフィルムがかぶせられた歯みがき具の概略図、第2図は第1図の歯みがき具を人さし指の内側に貼り付けた右手の概略図、第3図は歯みがき剤が設けられカバーがかぶせられた歯みがき具の概略図、第4図、第5図および第6図はそれぞれ歯みがき具の異なる包装形態を示す概略図である。

10：薄片、11：隆起部、12：接着剤層、13：フィルム、51：歯みがき剤、52：カバー、61：歯みがき糸。

出願人代理人 猪股清

Fig.1

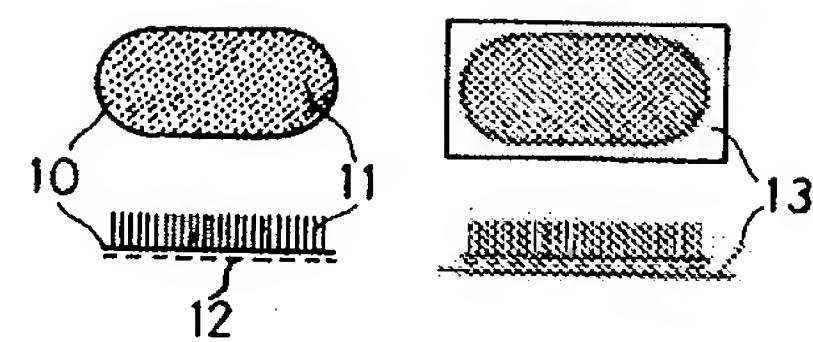


Fig. 2

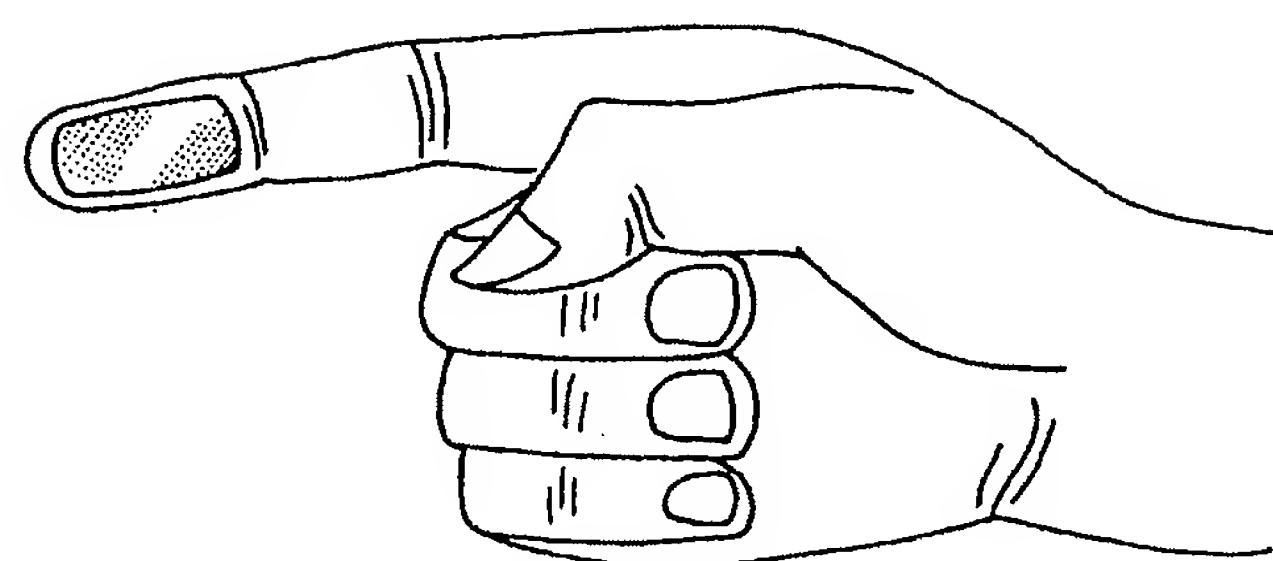


Fig. 3

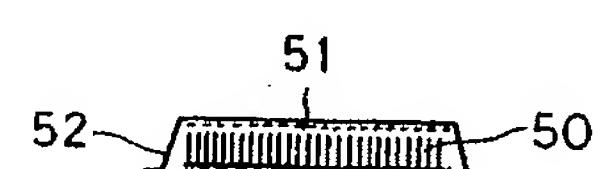


Fig. 4

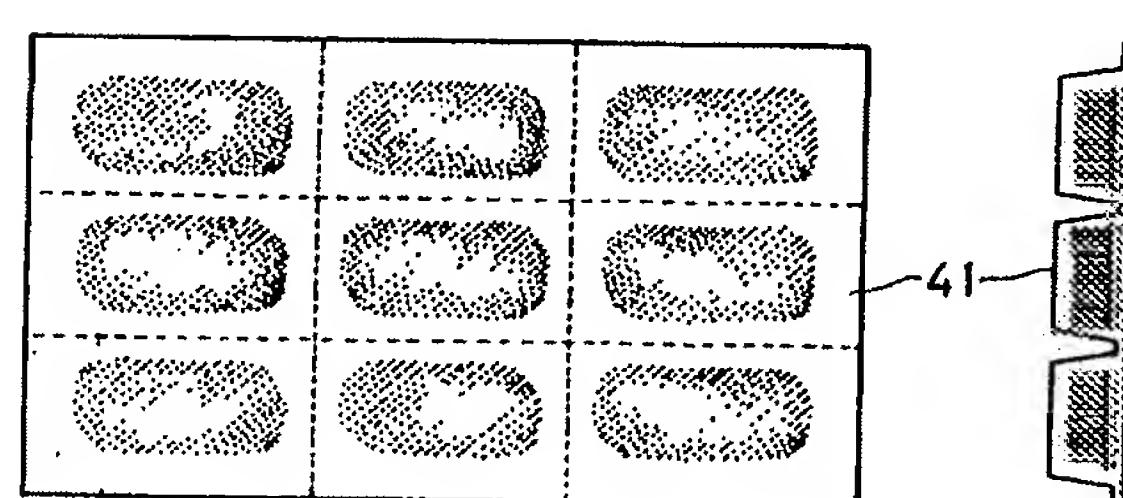


Fig. 5

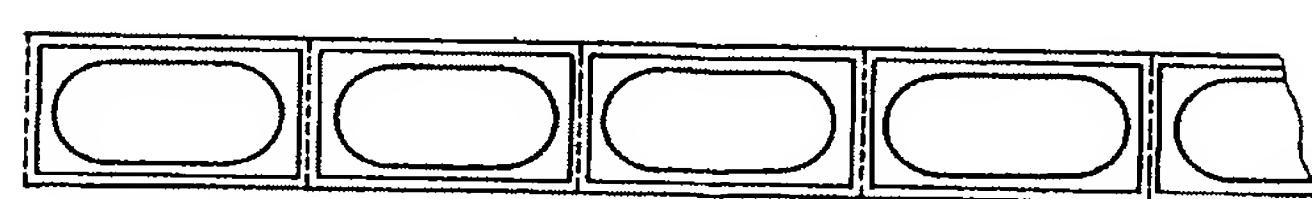


Fig. 6

